

食品健康影響評価の方向性（リスク判定の検討事項）（案）

➤ 厚生労働省からの諮問事項

○ SRMの範囲

現行の「全月齢の扁桃及び回腸遠位部並びに30か月齢超の頭部（舌、頬肉、皮及び扁桃を除く。）、脊髄及び脊柱」から「30か月齢超の頭部（舌、頬肉、皮及び扁桃を除く。）及び脊髄」に**変更した場合のリスクを比較。**

➤ ハザードの特定

非定型BSE感染牛に由来する30か月齢超の脊柱（DRG）に蓄積するPrP^{Sc}

➤ ハザードに係る知見の概要（ハザードの特性評価）

- 非定型BSE (L-) の**発生頻度**（0.07頭/年 2歳齢以上の牛100万頭当たり）
- 非定型BSEにおける**DRGの単位組織重量当たりの感染価**（中枢神経組織の約1/10～1/10⁵）
- 疫学的に**非定型BSEと人のプリオン病との関連を示唆する報告**はこれまでに**確認されていない**
- 実験動物を用いた非定型BSEの人への感染性に係る知見
 - **H-BSE**はヒト化Tgマウス及び非ヒト霊長類への**感染は認められない**
 - **L-BSE**はヒト化Tgマウス及び非ヒト霊長類への感染が**認められたものと認められなかったもの**がある（マウスではPrPの発現量の関与が考えられる。）

接種経路	対象動物	H-BSE	L-BSE
脳内	ヒト化Tgマウス（PrP自然レベル）	—	+ / —
	ヒト化Tgマウス（PrP過発現）	—	+ / —
	ネズミキツネザル	NA	+
	カニクイザル	—	+
経口	ヒト化Tgマウス（PrP自然レベル）	—	—
	ネズミキツネザル	NA	+ / —
	カニクイザル	—	— *

* PMCA法で一部組織においてPrPresの増幅が確認された事例あり

- ウシと人との種間バリア（**障壁あり**）
- 人におけるプリオンの用量反応（**閾値は不明**）

➤ ばく露状況

- 脊柱の利用等、摂取形態/頻度及び摂取量に関するデータは限定的
- ハザードのばく露量：具体的なばく露量を推定することは困難
※最悪のシナリオを仮定した場合は感染牛1頭に由来する**DRG全量**
- 非定型BSEの発生状況に加えて臨床症状を呈した牛は**フードチェーンから排除**

* その他（留意すべき事項） *

- ・ 食品を介した人の健康に及ぼすリスクを検討するにあたっては**経口投与実験**による知見がより**現状を反映**
- ・ 高感度検出法に係る知見については、その結果を科学的に判断